

平成30年度行政事業レビューシート ( 復興庁 )

事業名	イノベーション・コースト構想 (ロボットテストフィールド・研究開発拠点整備事業)			担当部局庁	復興庁	作成責任者		
事業開始年度	平成28年度	事業終了 (予定)年度	平成31年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官	山口 浩孝	
会計区分	東日本大震災復興特別会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	○イノベーション・コースト構想(平成26年6月) ○ロボット新戦略(平成27年2月) ○経済財政運営と改革の基本方針2015(平成27年6月) ○科学技術イノベーション総合戦略2015(平成27年6月) ○福島イノベーション・コースト構想に係るロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設(ロボット)の整備及び運営に関する協定(平成28年1月)			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	福島浜通り地域において、福島県の重点産業であるロボット分野の地元中小企業や県外先進企業による産業集積を構築し、被災地の自立と地方創生のモデルを形成する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	今後の利用拡大が見込まれる無人航空機(ドローン)、陸上・災害ロボット、水上・水中ロボットの開発を加速する上で、真に求められる機能(実証試験・性能評価)と規模を兼ね備えた世界に類を見ないテストフィールドを約50ha規模の敷地に整備する費用を補助する。 [補助率] 経済産業省→福島県 定額(10/10)							
実施方法	補助							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	-	5,102	1,308	3,483	2,725	
		補正予算	-	▲ 4,959	-	-	-	
		前年度から繰越し	-	-	-	340	-	
		翌年度へ繰越し	-	-	▲ 340	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	-	
	計		0	143	968	3,823	2,725	
	執行額		0	132	950	-	-	
執行率 (%)		-	92%	98%	-	-		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		-	92%	73%	-	-		
平成30・31年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由				
	地域経済産業活性化対策 費補助金	3,483	2,725	拠点施設の整備の進捗等により減額				
	計	3,483	2,725					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	平成32年度までに年間 1,300組の利用者数を 目指す。	ロボットテストフィールドの 年間利用者数(のべ組数)	成果実績	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	1,300
	達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	民間のドローン技術研修会等の利用者実績等から推計							
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	テストフィールドの設備の整備数	活動実績	-	-	-	-	-	
		当初見込み	-	-	-	3	11	
単位当たり コスト	算出根拠	単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	整備費(x) / 設備の整備数(y)	単位当たり コスト 百万円	-	9	69	273		
		計算式	x / y	-	132百万円 / 14	950百万円 / 14	3,823百万円 / 14	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策	IV. 中小・地域								
		施策	5. 福島・震災復興								
		測定指標	定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)					
			東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」を実現。	東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」を実現。	-	-	施策の進捗状況(実績)			-	
						-				-	
		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
		福島浜通り地域において、福島県の重点産業であるロボット分野の地元中小企業や県外先進企業による産業集積を構築し、被災地の自立と地方創生のモデルを形成することで、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興と新たな時代を担う産業の創出による「新生ふくしま」の実現に貢献。									
		改革項目	分野:	-	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		/	単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
目標値	-		-	-	-	-	-	-			
達成度	%		-	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		/	単位	計画開始時 - 年度	29年度	30年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-			
	目標値	-	-	-	-	-	-	-			
	達成度	%	-	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

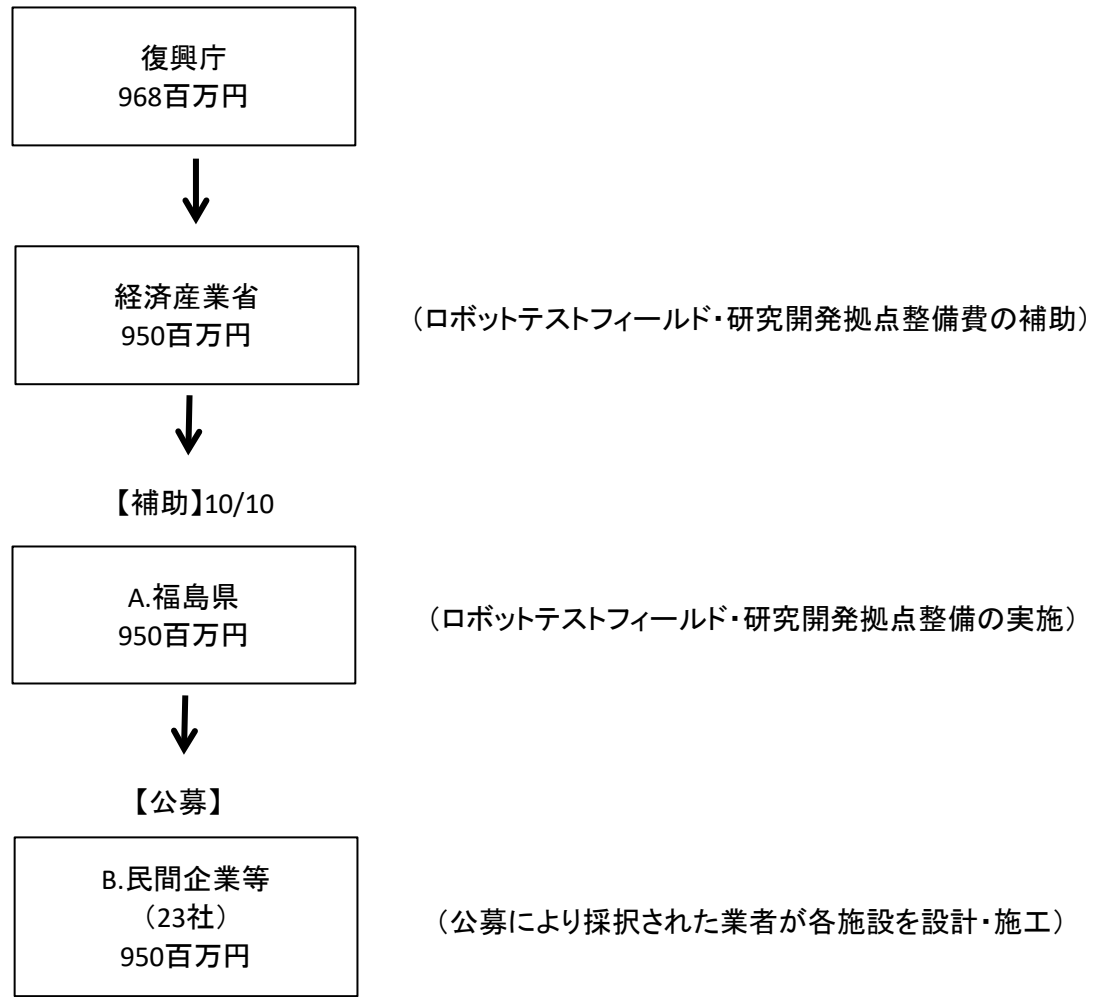
項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	平成26年12月に発足した、高木経済産業副大臣を座長とし、福島県知事、地元自治体の首長、有識者で構成される「イノベーション・コースト構想推進会議」において、平成27年6月、構想の実現に向けた議論の整理がなされ、ロボットテストフィールドと国際産学官共同利用施設について事業化していくことが決定した。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	福島浜通り地域の復興のために、フィールドロボットの開発拠点を作って内外の研究者を集めることは、国主導で実施することが必要。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	科学技術イノベーション総合戦略2015(平成27年6月)において、イノベーション・コースト構想の実施が掲げられており、本事業を速やかに実施する必要がある。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	当事業は福島県が整備することが決まっており、設計及び施工にあたり、広く民間企業等を対象として公募を行うため、競争性は確保される。なお、一者応募となったものは1月間の公募期間に応募者がなく2度目の公募によるもので、その際にも1月間の公募期間をとり競争性は確保していることから妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	経済産業省と福島県が平成28年1月に締結した整備・運営に関する協定に基づく財政支援のため妥当
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	有識者・関係者からなる委員会により、求められる各施設・設備を検討しており妥当
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	必要な経費のみを計上している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	有識者・関係者からなる委員会での検討結果を踏まえ、事業目的に沿った施設の整備に限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	有識者・関係者からなる委員会により、求められる各施設・設備の仕様等の検討とあわせて整備に係るコスト削減や効率化を図っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	整備手法等の工夫も実施しており、その他の手段・方法等は想定されない。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	整備スケジュールに沿っており、進捗に遅れはない。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
点検・改善結果	点検結果	本事業は、「イノベーション・コースト構想」の主要プロジェクトの一つに位置づけられており、物流、インフラ点検、災害対応で活躍するロボット・ドローンの研究開発に必要な実証試験と性能評価が一カ所で行える、世界に類を見ない拠点であることから、国が主導して行わなければ、実現困難である。このため、予算という手段を用い、国費(定額)により整備するもの。整備に係るコスト削減や効率化を図りながら、平成30年度以降、供用開始できる施設から順次開所していく予定。	
	改善の方向性	本事業の目標達成に向けて、点検項目の評価を維持していく。	
外部有識者の所見			
対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現状通り	○福島県浜通り地域の産業集積・新産業の創出による産業復興のために必要な事業であることから、引き続き効率性に留意しつつ予算の執行を進めること。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現状通り	○ロボットテストフィールドが計画通り整備されるよう、効率的な予算の執行に努めるとともに、福島県とともに、研究開発の進捗管理や技術の実用化に向けた取り組みを進める。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	-	平成28年度	新28-0008		
平成29年度	復興庁 ( 0136 )						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
 (単位: 百万円)



**費目・用途**  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.福島県			B.関場・藤特定建設工事共同企業体		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
整備費	ロボットテストフィールド整備事業に係る基本設計等	950	工事請負費	ふくしまロボットテストフィールド研究棟(仮称)整備(建築)工事	468
計		950	計		468

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	福島県	7000020070009	ロボットテストフィールド整備	950	国庫債務負担行為等	-	-	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	関場・藤特定建設工事共同企業体	1380001015636	ふくしまロボットテストフィールド研究棟(仮称)整備(建築)工事	468	一般競争契約(総合評価)	1	99.4%	-
2	パシフィックコンサルタンツ(株)	8013401001509	ロボットテストフィールド等整備事業全体基本設計等業務	110	随意契約(企画競争)	1	99.5%	-
3	伊藤冷機工業(株)	8380001015489	ふくしまロボットテストフィールド研究棟(仮称)整備(空調)工事	57	一般競争契約(総合評価)	5	92.3%	-
4	建設技術研究所・アーバン設計・日総建設設計共同体	7010001042703	設計関連CM業務	46	随意契約(企画競争)	1	99.9%	-
5	光洋・三浦特定建設工事共同企業体	2380001015833	ふくしまロボットテストフィールド研究棟(仮称)整備(電気)工事	41	一般競争契約(総合評価)	9	86.7%	-
6	セントラル住設・山元特定建設工事共同企業体	7380001015639	ふくしまロボットテストフィールド研究棟(仮称)整備(給排水衛生外)工事	36	一般競争契約(総合評価)	3	89.7%	-
7	山本堀・URリンクエージ設計共同体	9011001044695	ロボットテストフィールド等建築設計業務	30	随意契約(企画競争)	1	99.7%	-
8	地質基礎工業(株)	5380001013355	地質調査業務	18	指名競争契約(最低価格)	12	97.2%	-
9	南相馬市	2000020072125	南相馬市基盤整備負担金	18	その他	-	-	-
10	(一財)ふくしま市町村支援機構	8380005000181	福島ロボットテストフィールド積算業務委託	7	随意契約(その他)	1	92%	-

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1	A	福島県	7000020070009	ロボットテストフィールド整備	7,658	その他	-	-	-